

施策3 学校環境の整備・充実

◇ 主要事業の概要及び実施状況

【学校施設更新計画策定事業】

民間企業による策定支援を受けながら、4回の上尾市学校施設更新計画策定委員会と、9回の同作業部会を開催し、1回の懇話会を実施しました。また、令和元年7月から8月にかけて「上尾市学校施設更新計画基本方針（案）」についてのパブリックコメントを実施し、令和元年12月に同方針を策定しました。加えて、基本方針を基に更新計画策定に向けての資料作成を実施しました。

【小中学校図書整備事業】

学校図書館図書の整備については、書架の整備や、学校毎の図書標準達成率をもとに予算配分することで、例年並みの図書標準達成率を維持することができました。（小学校101.7パーセント、中学校100.3パーセント）

【小中学校教育教材整備事業】

教育教材の整備については、学校規模に応じて効率的に整備することができました。老朽化したグランドピアノは、芝川小1台、大谷中1台の入替を行いました。

◇ 施策の評価

学校施設更新計画策定事業では、背景として、上尾市の市立学校は、児童生徒数のピークとなる昭和57年の約32,000人を受け入れ可能とするため、整備を行ってきました。しかし、その児童生徒数も現在では、半数に迫る人数となり、さらに減少する見込みです。加えて、現在の校舎の約70%が建築後40年以上を経過し、今後更新を行う必要があるため、児童生徒数に合わせた環境整備が求められています。

こうした中で、小中一貫教育やアクティブラーニング、インクルーシブ教育、コミュニティ・スクール等の新たな学校環境を必要とする取組に対応する施設整備と、地域活動に有効的な公共財産活用等も視野に入れた、学校施設マネジメントを実現するため、「上尾市教育振興基本計画」や、上位計画である「上尾市公共施設等総合管理計画」に沿った維持可能な施設整備を念頭に「上尾市学校施設更新計画」を令和2年度に策定予定としました。

平成31年度は、「学校施設更新計画基本方針」を策定しました。また、地域総合整備財団の公共施設マネジメントモデル事業へ参画し、将来児童生徒数シミュレーションと施設更新コストのシミュレーション、更新に係る実施方法について上尾市モデルを検討し、有識者報告会で報告しました。課題は、学校を客観的に観るための指標づくりや、学校関係者や地元住民の意見聴取方法の具体化、コストパフォーマンスの高い教育環境の整備方法の具体化を現実可能な内容で検討する部分です。具体的に進められる計画づくりを目指して、学校教育部とこれまで以上に連携し内容検討を行い、令和2年度中に「上尾市学校施設更新計画」を策定します。

小中学校図書整備事業では、図書資料の整備の面では、各校で導入されている学校図書館システムを活用しながら、学校図書の廃棄と更新のバランスに留意し、引き続き計画的な整備に努め、小中学校全校での図書標準達成率100パーセントを目指します。

近年では、学校図書館は、読書活動の推進のために利活用されることに加えて、調べ学習や新聞を活用した学習など、各教科等の様々な授業で活用されることにより、学校における言語活動や探究活動の場となり、主体的・対話的で深い学びを効果的に進めていく役割が一層期待されています。図書資料の整備の面だけでなく、市図書館との連携など、他の事業と連携を図

りながら、ソフトの面においても、各校に配置している図書館支援員を中心に、児童生徒の読書活動のより一層の充実を図ってまいります。

小中学校教育教材整備事業では、より効果的に学校教育に資するよう、計画的、効率的な教材備品の購入に努めていきます。

◇ 意見・提言

施策4 ICT教育の推進

◇ 主要事業の概要及び実施状況

【指導方法改善事業】

適正な教育課程を編成・実施し、教育活動の充実や教員の指導力の向上及び授業の充実を図るために必要な資料の作成・配布、研修会等を行います。

平成31年度においては、情報活用能力系統表の作成、学習者用端末や無線LAN環境を活用した指導方法の工夫改善を図るための研修会等を行いました。

【小中学校コンピュータ整備事業】

<教育用パソコンの整備>

平成25年度に小学校各校のパソコン教室に導入したノート型パソコン（各校40台）を、タブレット型のパソコンにリース方式によって入替を行うとともに、普通教室においてグループワーク等で使用することが可能となるように、22校で計752台のタブレット型パソコンを導入し、合計1,632台のタブレット型パソコンを整備しました。（中学校の教育用パソコンは、30年度において整備（各校PC教室40台のほか、計700台のタブレット型パソコン））

<校務用パソコンの整備>

平成25年度、26年度に導入した校務用のパソコンを入替え、970台を新たに整備するとともに、これに併せて、各校職員室のLAN回線の整備を実施しました。

<無線LAN環境の整備>

パソコンを活用する上で重要なインフラとなる無線LAN環境であるが、文部科学省が策定した教育のIT化に向けた環境整備計画等を踏まえて、前年度となる平成30年度は中学校における無線LAN環境を整備し、平成31年度は、小学校における無線LAN小学校において整備しました。

また、令和元年12月には、国が「GIGAスクール構想の実現」を表明したことを受け、一部の小中学校の無線LAN環境の改修工事も行い、これにより、全ての小中学校におきまして、GIGAスクール構想が目指す「気密性が高く、高速大容量」の標準的な学校ネットワークが整備できることとなりました。

◇ 施策の評価

指導方法改善事業においては、法令に基づいて適正な教育課程を編成し、実施するとともに、学力向上及び教育活動の充実を図るため、教員一人一人の指導力の向上を図ることは大変重要です。プログラミング教育が始まった小学校各校に算数・理科・総合で活用できるロボットプログラミング教材を8セット整備しました。

また、中学校学習者用端末操作研修会、SKY Menu活用研修会や小学校プログラミング教育研修会を2回、教育研修会、生徒指導研修会、教育課程研究協議会等の研修会を実施し、教員一人一人の指導力の向上を図ることができました。

小中学校コンピュータ整備事業においては、33校においてタブレット型パソコンと無線LAN環境を整備したところです。

この評価年度の中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まったことを受け、3月2日には市内全校休校という措置を取らざるを得ない状況となり、改めて教育のICT化の重要性

を再認識させられました。

国が加速化させた「GIGAスクール構想・一人一台端末の実現」を踏まえ、令和2年度中に、本市においても一人一台端末が実現する運びとなります。重要なのは、端末を導入することではなく、端末を有効に活用し、子どもたちの成長や学力向上につなげることでありますので、令和2年度は、端末の準備に並行して、導入する端末を十分に活用した教育活動を行うことができるよう、教育委員会、各学校が一体となって、準備を進めてまいります。

◇ 意見・提言